令和４年度学校評価（最終評価）

愛知県立大府高等学校（全日制）

本年度の重点目標	①学ぶ意欲を高めるための授業改善 ②自己指導能力の育成とこころ豊かな生活を築く態度の育成 ③安全・安心な学校づくり ④家庭や地域との協働による教育の推進 ⑤実効性のある働き方改革への取り組み		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総　務　部	①業務の効率化と次年度への円滑な引き継ぎ ②防災体制の充実 ③コロナ禍におけるPTA活動の精選	①業務の複数担当制の確立と、現行のマニュアルの見直し・改善を図る。 ②「高校生防災セミナー」に教員、生徒が参加し学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーの育成を図る。 ③コロナ禍において、PTA役員会、総会等のPTA活動の方法を研究する。	①業務の複数担当制はおおむね実施できたが、新型コロナウィルス感染症の影響で、一部の学校行事が変更となり、一部の先生への負担が大きくなってしまった。コロナ禍におけるマニュアルの見直し、改善を次年度には行いたい。 ②高校生防災セミナーでは、生徒が意欲的に学ぶことができた。LTの時間に、全校生徒へ向け学んだことを発表をすることにより、本校生徒に防災への意識づけのきっかけになったと感じる。来年度も継続して進めたい。 ③コロナ禍ではあるが、１学期には学校内、２学期は校外の施設において、役員会などのPTA活動を行うことができた。日程など様々な点で改善すべきところを見直して、次年度に活かしていきたいと思う。
教　務　部	①『指導と評価の一体化』のための研究 ②新校務支援システムを利用した校務の一元化	①各教科での評価方法の共有を通じて、ICTの活用や新たな評価方法を研究する。また、公開授業週間等に生徒アンケートを実施するなど、授業改善に活かすことのできるデータを提供する。 ②成績処理、調査書作成などを校務支援システム（スクールエンジン）に一元化することで、業務のスリム化を目指す。	①評価に関するワークショップや教科会などを通して、教員間で授業改善や評価方法に関する情報共有を行うことができた。また、公開授業週間後に実施した一人一台タブレットの効果的な使用方法に関する生徒アンケートでは、タブレットを用いた演習や対話的な深い学びを行う場面での活用に関して、生徒の満足度が非常に高い傾向にあった。使用方法など各教科間で情報共有するなど、学校全体で授業を改善していく意識を高めていきたい。 ②成績処理において、大半の処理を校務支援システム（スクールエンジン）で行うようにマニュアルや成績処理の流れを整備することができた。しかし、校務支援システムへの一元化は進まず、２つの成績処理システムを併用したことで業務が煩雑になってしまった部分もあった。来年度も引き続き、成績処理システムの一元化を含め、成績処理業務をスリム化するための方策を検討したい。
生徒指導部	①基本的生活習慣の確立（遅刻防止） ②交通安全意識・登校マナーの向上 ③身だしなみ確認週間の理解	①８時３５分に教室へ入室、５分前登校の指導を継続、徹底させる。 ②交通安全指導への生徒参加、地域へのアピールしながらＰＴＡ合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導を徹底させる。自転車通学路及び自転車の交通ルール・マナー(ながらスマホ等)の徹底を守らせる。 ③身だしなみ確認週間を実施し、理解させ活用する。また登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認する。	①昨年度の遅刻指数0.66（総数６３４）、今年度0.90（総数８４８）と多くなっている。それに伴い、８時３５分以降に教室へ入室している生徒の割合も多くなっている。来年度は、今年度の反省を生かして、８時３５分に教室へ入室をより徹底させ、遅刻指数を減らしていきたい。 ②昨年度よりも交通マナーに関する地域の方からのご指摘が少ない。交通安全講話等を通じて、生徒に自覚をさせ、交通事故件数を少なくしていきたい。。 ③身だしなみ確認週間を活用し、生徒自身が見つめなおすことができていると感じている。また、普段の生活における身だしなみにおける指導件数は、少なくなっている。来年度は、頭髪を生徒自ら考えさせる必要があるので、学校全体で、指導・支援を行っていく必要がある。
進路指導部	①進路行事計画の改善 ②学びの基礎診断の効果的な実施 ③主体的な進路選択とその実現に向けてのサポート	①それぞれの進路行事を検証し、改善を図る。 ②令和４年度から学びの基礎診断を、各教科と連携しながら効果的に実施する。 ③進路相談の充実を図る。生徒の進路選択に関する満足度を図るアンケートを第３学年の生徒に実施し、７割以上の生徒が満足感を得ることを目標とする。	①各学年団との連携を取りながら、補習、夏季セミナー、冬季共通テスト演習、夏季・冬季講習などの学習活動を行ってきた。進路研究等の行事も順調に行われた。今後は、学習会等に参加する生徒をもっと増やしていきたい。 ②実施する目的を踏まえて、学年や教科と打ち合わせながら、計画をしてきた。学びの基礎診断は３月に実施する予定である。 ③担任を中心として、面談などを通して進路相談を行っている。今後も進路情報を適切な時期に生徒に発信していきたい。３年生へのアンケートは３学期に行う予定である。
保健厚生部	①新型コロナウイルス感染症対策 ②生徒が健やかな学校生活を送っていくためのサポート ③校内および学校周辺地域の美化活動の充実	①毎朝の検温と健康観察を継続し、手洗い・消毒、換気等の感染症対策を充実させる。 ②週一回の相談部会、学期に一度の教育相談委員会を通じて、教育相談・特別支援教育の校内体制を充実させる。 ③定期的な除草作業、年一回の校外ボランティア活動を行う。	①毎朝の検温と手洗いを含めた健康観察を継続している。昼食時に保健委員が放送を入れ、日常的に感染症対策への意識を高めている。朝ＳＴ時の健康観察カードの記入を継続していくかなど、今後の感染症対策について検討していきたい。 ②週一回の相談部会で情報交換をし、必要に応じてスクールカウンセラーにつなげている。カウンセリングの希望者が多く時間の調整が難しくなっている。生徒のメンタルヘルス改善のために、関係職員間でさらなる連携をはかっていきたい。 ③除草作業は１，２年生がそれぞれ１回ずつＬＴの時間に実施した。清掃ボランティア活動は部活動や委員会の生徒を中心に約400名が参加し、校内外をきれいにすることができた。どちらも限られた時間ではあるが生徒が達成感を得られる活動として今後も続けていく予定である。
図書情報部	積極的な情報発信とスクールエンジンのスムーズな導入・運用	①図書館司書を中心に新着図書の情報を紹介しながら、図書委員に行事や時期に応じた図書館活動をさせて図書館利用の活性化に努める。 ②ホームページ等を充実させ、地域への情報発信を活発に行う。 ③情報機器の使用方法を職員に周知するとともに、スクールエンジンの導入・運用を目指していく。	①図書館便りも着実に発行され、利用者数の増加に新着図書の紹介が良い結果をもたらした。次年度は図書委員の活動内容をもう少し増やし図書館の活性化に努めたい。 ②分掌や学年にホームページ担当者を設け、情報収集を迅速に行った。次年度も更新頻度を増やし地域の方々にとってそれが魅力的なものになるよう継続的に活動していく予定である。 ③生徒用タブレットやスクールエンジンの操作運用方法に関しては、初導入ということもあり職員生徒にまだ完全に定着しておらず、今後の課題である。ICT活用では、Microsoft teamsによる朝の全体打ち合わせによって、時間が短縮され余裕が生まれた。
生徒会部	豊かな心の育成につながる学校行事の企画、運営	①外部施設で実施する学校祭の安全かつスムーズな運営 ②暑さ対策に重点を置いた球技大会の運営 ③生徒主体の議会運営の充実 ④学校設備の点検、補修の徹底	①検温の実施、入場時間の分散等できる限りの感染防止対策を行い、安全に実施することができた。また、計画通りの時間で進行でき、スムーズな運営が実現できた。 ②季節外れの猛暑日が続いたため延期をし、運営にあたって適切な日程に再調整した。また、帽子や日傘の積極的活用を促すことで生徒が自主的に暑さ対策を行うことができた。 ③議会運営においては生徒主体で進行することができている。しかし、資料作成や事前準備などが生徒主体でやり切れていない部分があるため、今後の課題としていきたい。 ④学期ごとで部室点検を実施し、要補修部分については適宜報告・改善できている。
生活文化科	新しい時代に対応できる職業人として必要な資質と能力の育成	①生徒の主体的な学びを充実させるため、ＩＣＴ機器の有効的な利用方法等の研究をする。 ②新教育課程の科目を始め各科目において内容の精選を行い、さらに充実した授業内容となるよう努める。また指導と評価の一体化に努める。 ③生活文化の伝承・創造に関する学習の充実を図り、愛知ものづくり文化継承事業に継続して取り組み、実践的な技術、技能を習得させる。	①生徒個々のタブレット端末を用いた調べ学習およびグループやクラスでの発表活動において、グループ内で意見を出し合ったり役割分担したりするなど生徒が主体的に学ぶ姿が見られた。また発表の仕方や的確な質問の仕方なども学ぶ機会となった。さらに、生徒のより効果的な学びの場となるようロイロノートやチームズについてその利用方法を研鑽した。 ②新教育課程の各科目において生徒の成果物のルーブリックを作成した。また、観点別学習状況の評価の結果より、授業及び考査問題の改善に努めた。今後は個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る授業改善に取り組んでいきたい。 ③外部講師を招いた和菓子講習会や座布団製作講座を始め、各科目・分野において生活文化に関する学習の充実を図った。
第一学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立	①相談・面談・声掛けを充実させ、生徒の心身の状態に応じた指導を心がける。 ②挨拶・時間の遵守・礼儀の大切さを伝えることで規律ある態度を育てる。 ③学校での学習環境を整え、主体的な家庭学習が充実するよう学習の成果や分析結果を共有する。 ④保護者との連絡を密にとり、正確な情報共有により生徒を学校と保護者で支える。情報提供のために、メール配信システムの登録を促す。	①担任会・学年会を通して生徒情報を共有し、生徒の状態に合わせた指導ができた。 ②授業、学校行事等の集団生活を通して、規律ある態度を育てることができた。 ③自らの学習を調整する力を身に付けさせる声掛け、指導を行った。学年会等で新学習指導要領の解釈を教員間で議論し理解を深めたことで、教科を超えて何事にも主体的に取り組む意義を、生徒へ意識付けることができた。 ④不登校傾向、成績不振の生徒もみられるが、保護者との定期的な電話対応や面談、スクールカウンセリングの活用など、個別の対応ができた。来年度以降に引き継ぎ、家庭との連携を継続したい。
第二学年	進路目標の深化と学習意識の変革	①１年生で設定した進路目標をさらに深め、進路意識の高揚を目指す。 ②身に着けてきた学習習慣を保持するとともに、学習の量だけでなく質的向上を図る姿勢を定着させる。 ③授業に集中できる環境を整え、ICT教育の推進により学習に能動的に取り組む姿勢を引き出す。 ④学校生活の基本的な習慣を見直すとともに、行事を含めた集団生活を通じて帰属意識の高揚を図る。 ⑤保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換を心がける。	①総合的な探究の時間や担任との面談を通して具体的な進路目標を持つ生徒を増やすことができた。 ②面談や進路講演会、進路探究などを通して希望進路に進むために必要な学習について多くの生徒が理解をすることができた。普段の学習にも能動的に取り組む生徒が増えてきた。 ③考査期間中や長期休業中の自習室の設置や教科によって長期課題をタブレットを使って提出させるなど生徒の興味を引き出すきっかけ作りができた。 ④修学旅行や文化祭などの行事を通して生徒一人一人の集団の中での取り組み方を向上させることができた。 ⑤学校での出来事は保護者に共有をし、家庭と協力した教育環境が構築されている。
第三学年	自立・進化・実現 ～他者との共生を目指して～	①生徒の学力を向上させるために、各教科の教員が生徒の意欲・関心を引き出す工夫をし、授業時間内の学習効果を最大限に高められるよう努める。また、生徒が高い目標を設定して自発的に学習に取り組む姿勢を教員が適切に評価する。 ②面接を通して進路希望や適性を定期的に把握し、的確な助言ができるよう努める。また、年度末にアンケートを実施し、「自分の進路決定に満足している」と答える生徒が半数以上となることを目指す。 ③災害に備える心構えと、心身の成長に合った危機管理意識を持たせる。また、日常的においても安心して生活できる生活環境、学習環境を整える。 ④保護者との連絡を密にとり、生徒を学校と保護者で支える。情報提供のために、メール配信システムの全員登録を目指す。 ⑤学年団の連携により教育効果を向上させるとともに、働き方を見直しゆとりある教育ができる環境にする。	①早い段階で個々の進路目標を具体化し、実現に向けての道筋を明確に設定することができた。そのため、生徒は目的意識を持って学習に取り組み、定期考査や模試結果を活用しながら学習に役立て、授業や自学において高い学習効果が得られた。また、業後や土曜日の学習会、補習やセミナー等を活用する生徒も多く、学習環境の設定も適切であった。 ②面接週間を有効活用し、模試結果や受験校決定時期に合わせて適切なタイミングで対応できた。アンケートは概ね進路先が決定した段階で実施し、次年度報告予定である。 ③今年度、１学期始業式に地震が発生した。その際、生徒は瞬時に机に頭を隠すなど適切に対応した。日頃の避難訓練や講話等の成果であると感じる。またコロナウイルスへの感染対策も含め、生活環境全般ついての危機意識も一定の水準で浸透させることができた。 ④メール配信登録は、生徒・保護者ともにほぼ完了した。また電話連絡だけでなく欠席連絡等のオンライン入力も活用し、保護者との情報共有を密にとることができた。 ⑤３年間を通して学年団の連携はスムーズにとれた学年であり、生徒の実態に合わせた指導を行うことができた。働き方改革は多様化する生徒集団へと変化している現状、時間は必要であり、難しい課題である。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組み		①いじめの早期発見や未然に防ぐために、学校生活アンケートを年３回行う。 ②いじめ不登校対策委員会を定期的に行ない、情報の共有化を図り、学校全体でいじめに対して取り組む。	①いじめになる前の段階で指導することができている。今後も学校生活アンケートなどを活用し、いじめ対策を教職員全体で行っていく必要がある。また、学校生活アンケートで出てこないいじめについてどのように把握するかが今後の課題である。 ②いじめ不登校対策委員会での情報の共有により、未然に防ぐことができている部分もある。今後は、スクールカウンセラー等と連携しながら、迅速に対応し、生徒が相談しやすい環境をつくる必要がある。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況		①定時退校日を月１回程度設定し、在校時間が1か月あたり45時間,1年間360時間を超えないよう業務を適正に割り振る。 ②在校時間等の状況記録の結果を活用し、学校医や養護教諭、スクールカウンセラー等と連携して、教職員のメンタルヘルスの維持向上に努める。 ③安全衛生委員会において、教職員自らが働き方の改善のための話し合いをし、実行に移せるような環境を作る。	①定時退校を月に１回設定し年間予定にも組み込んでいるが、昨年度より数日前から事前に伝えることで、計画的な勤務を促すこととした。この日の定時帰宅率は向上している。 ②コロナ禍への対応業務の割合は減少したが、今年度からスタートした新教育課程における日々の授業やその評価などで手探りのことが多く、これらの業務を支援する新校務支援システムは、改善を望むような運用もあるため、職員の負担増につながっている。そのため、勤務超過となる職員も増加している。一方、部活動支援員やICT支援員の導入など一部では負担軽減につながる仕組みも功を奏している。 ③職員の各自の働き方における工夫がお互いに見られ、問題提起となるようアンケート調査を実施した。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		①学ぶ意欲を高めるための授業改善 ②自己指導能力の育成とこころ豊かな生活を築く態度の育成 ③安全・安心な学校づくり ④家庭や地域との協働による教育の推進 ⑤実効性のある働き方改革への取り組み	①新教育課程のスタートでこれまでとは違った学力観、学びの手法・方向性を示し、一人一人が学ぶ意欲に満ちた学習活動を確立する必要がある。まだまだ手探りではあるが、次年度につながる改善が随所に見られた。 ②コロナ禍によりできなかった活動が徐々に再開され、生徒が参加できる場面が増えた。その際、従来どおり実施するのではなく、工夫の必要がある場合が多いので、却ってよい学びの場となっているケースもある。今後も生徒が工夫を凝らし、積極的に参加できる活動を実行したい。 ③高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」に１年生の４名が参加し、その講習や活動を全校生徒にフィードバックした。防犯・防災教育の新しい一面となった。 ④PTA活動が徐々に再開され、保護者が学校に直接来校、参加する機会もできているので、従来の活動にとらわれず、改めて保護者との協働を工夫したい。また地域活動への参加も再開がすすんだ。 ⑤安全衛生委員会を中心に職員アンケートを実施。その意見を共有し、実行に値するものは積極的に取り入れたい。